



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：国会選挙実施

イスラエルでは、1月22日、国会（第19回）選挙が実施された。投票率は66.6%。

開票結果は以下の通り

（「 」は、選挙のための統一名簿）

「リクード-イスラエルベイツ」	31
イエーシュ・アテッド	19（新党）
労働党	15
シャス	11
「ユダヤの家」	11
統一トラー・ジュダイズム	7
ハトウア	6（新党）
メレット	6
カディマ	2
アラブ政党	
United Arab List-Taal:	5
Hadash:	4
Balad	3

国会 120 議席内の左派・中道・右派・宗教政党の分類では、右派・宗教政党勢力 60 議席、左派・中道・アラブ政党 60 議席となった。事前の世論調査と比較すると、右派政党の「リクード・イスラエルベイツ」が支持率を下げた 31 議席になり、中道の新党のイエーシュ・アテッド党が 19 議席と支持率を伸ばした。第一党になった「リクード-イスラエルベイツ」は、リクードとイスラエルベイツが、今回の選挙用に共闘した統一名簿であり、今後、別行動を取る可能性がある。その場合、リクードは 20 議席前後になる。

評価

選挙前は、イスラエル政権が、さらに右傾化するのではないかと予想された。しかし、イスラエルの有権者は、イスラエル政治が過度に右傾化することを避けた。イスラエルの有権者は、民主主義の伝統がさらに変質することを阻止したといえるかもしれない。新連立政権に、中道政党が参加するようになれば、より世俗的で、国際社会の中でのイスラエルの立ち位置を意識する政権になる可能性がある。また今回の選挙戦では、安全保障問題ではなく、経済問題や経済格差の是正などが有権者の関心事項になったといわれる。有権者が、経済問題や社会的正義の実現に目を向けることは、イスラエル内政の文脈では、結果論として、国防費削減や中東和平の促進に向かうことを意味する点は押さえておく必要があるだろう。

(中島主席研究員)